

Caremanagement Of Katsushika

広報 けあとも

発行

葛飾区介護サービス事業者協議会

居宅介護支援部会 広報委員会

編集責任者 江畑 純子

介護サービス事業者連絡会 報告

6月18日(水)10時から、男女平等推進センター多目的ホールにて、事業者連絡会が行われました。その中で、介護保険課管理係 森氏より、国保連絡会の報告事項として、「苦情事例の紹介」がありました。

居宅介護支援事業における苦情として、①説明不足 ②状態把握不足 ③所内及び関係者間の連携不足 ④記録の不備等が挙げられました。そのために、適正なケアプランが作成されていない、利用者及びその家族との相違が生まれているとの指摘を受けました。

今一度、自分自身を見つめ直し、利用者及び関係者等との情報共有、連携を深め、責任ある対応が出来るように心がけていきましょう。

5月研修会 報告

5月16日(金)14時より、シンフォニーヒルズ別館5階 レインボーにて、研修会を開催しました。

最初に、「療養病床の転換と東京都の取組み」と題して、東京都福祉保健局高齢社会対策部計画課計画担当係長 荒川智絵氏にお話して頂きました。

医療費適正化計画に基づき、2012年までに医療療養病床のうち、医療ニーズの低い介護型療養病床(東京都は3割程度)を削減する方針が、厚生労働省より打ち出されています。東京都でも、患者及び関係者等の不安に伝えていけるように、地域ケア体制の整備を進めているところですのでの説明がありました。

次に、「長寿医療制度について」と題して、葛飾区国保年金課制度調整担当係長 大川芳治氏より、お話して頂きました。

H20年度6ヶ月間のみ、所得の低い人には激変緩和策の適用がある事、7月頃に、「保険料のお知らせ」が郵送される事など説明して頂き、葛飾区の取組みと現況について、学びました。

関心の高いテーマだったようで、参加者は100名を超え、会場は大盛況となりました。



7月研修会 お知らせ

日時：7月16日(水) 14:00~16:30
場所：男女平等推進センター 多目的ホール

先日お知らせしましたが、「高齢者に多く見られる疾患の理解」と題して、講師にMRCクリニック院長 佐々木淳先生にお願いしています。

具体的な事例を通して、葛飾区に多い疾患の基礎知識や対応策等を講義して頂きます。

耳寄りお役立ち情報

日々ケアマネジャーとして、利用者及び関係者等との関わりの中で、特に医療依存度の高い方や専門的なリハビリが必要な方等のプラン作成にあたり、頭を悩ますことも多いと思います。

変化している在宅介護の状況の中で、現行の解釈による様々な医療行為を医療機関に限定した考えで、利用者の生活を支えていくのは、訪問看護等の資源を考へても無理があるように感じます。明確でなく、介護現場でも判断の分かれていた医療行為について、H17年7月厚生労働省から、「原則として医療行為ではないと考えられる行為」の通知が出されていますので、再度確認してみたいかがでしょうか？

ほんの一例になりますが、痰の吸引についても法的には医療行為ですが、在宅生活が可能な程度で、長期間吸引が必要な方に対して一定の条件を満たせば、介護従事者にも認められています。この一定の条件というのが、①医師の指示に基づき、医師や看護師からの研修・指導を受け、知識・技術を身につけ、②更に事故が起きた際、指示を仰ぐ為の医療機関、訪問看護との連携ルートを作り、③事故対応や賠償についても同意を得るといったセーフティーネットを構築することです。

ケアマネジャーには、高い調整力が必要になります。これからの在宅生活は医療、介護職が今まで以上に総合的に連携していかなければ、利用者・家族のニーズには答えられないと思っています。

～ 編集後記 ～

梅雨の真っ只中、「けあとも」第10号が出来上がりました。

雨の中の定期訪問、本当にご苦労様です。その道すがら、目を奪われるのは色とりどりの紫陽花ですが、その花言葉に、「辛抱強い愛情」とか「元気な女性」などがあることをご存知ですか？

皆様も健康に留意され、元気にこの時節を乗りきって下さい。(江)